

■ 令和4年度 第1回 秋葉区自治協議会

日時：令和4年4月25日（月）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

1 開会

（金子会長）

皆様こんにちは。年度のはじめですので、私のほうからごあいさつをさせていただきたいと思います。新しい年度が始まりました。また皆さんと元気に、新たな年度の活動を始められること、本当にうれしく思っております。今年度も何卒、よろしくお願いいたします。

新しい年度ということで、新しい委員の方もお三方、本日からお迎えすることになりました。そして、秋葉区長が交代しまして、長崎区長、お帰りなさいと言ったほうがよろしいのでしょうか。ついこの間のような気がするのですけれども、2階の奥のほうにいらっしゃいまして、皆さんもご存じの方多いかと思えます。

そして本日は、朝妻副市長からもお越しいただきまして、つい先日というのでしょうか、市長からもお越しいただいて、密に市政の中枢部におられる方々が秋葉区の自治協議会の会議に足をお運びいただき、私たちの意見に心を傾けてくださるということは、大変ありがたいことでございます。本日も活発な意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、何卒、よろしくお願いいたします。

年度が変わりましても、この秋葉区自治協議会の基本とする姿勢スタンスは変わらずということですが、議論と行動の両輪で進んでいく。これを方針にしていきたいと思えます。少しだけ振り返ると昨年度はコロナ禍のまっただ中であつたにもかかわらず、活発な現場での活動を展開でき、いつも以上に活発な議論、意見交換もこうした会議、部会での議論を通して交わすことができたかと思っております。秋葉区の自治協議会の持ち味と言ってもいいのではないのでしょうか。

そのことを思うときに、最近、社会のあり方について、一つ重要なキーワードとして言われている言葉がありまして、横文字で恐縮ですが、レジリエンスという言葉は聞いたことございますでしょうか。もしくはレジリエントな何とかというような使い方。レジリエントな社会を目指そうということが言われるのですけれども、日本語に直すと強靱なという訳が当てられることが多いのでしょうか。強いのですが、ダイヤモンドのようなかちこちの強さではなくて、しなやかに、柔軟に対応できる強さ。いろいろなものを

受け入れることができる、包摂することができる強さなのです。今、かつてないほどに予見が困難な時代がずっと続いているのではないかと思います。そんな中で必要とされるのは、かたくなな、突き進むようなパワフルさではなくて、柔軟にいろいろなものに気を配りながら、包摂して新たな解決方法を見いだしていく。そういうレジリエントな姿勢なのではないかと思っています。この秋葉というまちもレジリエントにいろいろなものに対応しながら前へと進んでいけるような、そんなまちづくりを皆さんと一緒にできたならば最高なのではないかと思っております。そういった力をつけていくうえでやはり必要なのが、密なコミュニケーション、議論と、一步踏み出してみようという行動力なのではないかと思うのです。行動してだめだったら、修正してまた行動するという、そんな姿勢で、ぜひ皆さんと一緒に今年度も楽しみながら進んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

マスコミは、本日は新潟日報、FMにいつから取材の依頼を頂いております。写真撮影など、許可してよろしいかお諮りしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。ありがとうございます。異議ないようですので、許可することにいたします。

そして、本日、お越しいただいている朝妻副市長、お時間を割いてお越しいただき、ありがとうございます。開会に当たって、一言ごあいさついただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(朝妻副市長)

改めまして、皆さんこんにちは。4月から秋葉区を担当させていただいております、朝妻でございます。今日は、年度当初第1回目の自治協議会ということで、ごあいさつを兼ねまして、おじゃまさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。今後につきましても、機会をとらえまして、皆さんと議論を重ねて、課題意識を共有させていただきたいと思っておりますし、これからイベントも恐らくはあると思っておりますので、そういうところにも顔を出させていただければと思っております。

ご案内のとおり、今年は総合計画の策定年度に当たっておりまして、市議会での議論も今、始まっております。同時に区ビジョンの策定ということで、皆様方にも議論を進めていただいているということで、大変ありがとうございます。人口減少等で、恐らくは右肩下りの時代であろう今後に向けて、将来像を描くということは、難しいことかと思っておりますけれども、議論を重ねて、良いものにしていければと思っておりますので、こちらもどうぞよろしくお願いいたします。

今年、ちょうど政令市に移行して15周年ということでございまして、政令市移行を目的として、大同団結して、広域合併したという歴史でございます。したがって、も

う少しすると広域合併から 20 年という節目を迎えるわけですが、そういう時期に当たって、改めて原点に立ち返ってみるということも必要なのではないかと考えております。今日はいろいろと皆様のご意見をお聞きできればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(金子会長)

朝妻副市長ありがとうございました。どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、新たに着任されました長崎区長からも一言ごあいさついただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(区 長)

皆さんこんにちは。4月より区長を務めております長崎です。よろしく願いいたします。

2年前まで産業振興課長を3年、秋葉区で務めさせていただきまして、その前には地域課長も2年務めておりましたので、自治協議会ですとか、コミュニティ協議会、自治会等の支援をさせていただいておりました。また、地域課長時代には、着用されている方もいらっしゃいますけれども、アキハスムプロジェクトを始めたり、あるいはキラキラ女子なども始めたりさせていただきました。また、産業振興課長時代には、もち麦プロジェクト、JRの豪華列車四季島のお出迎えをはじめとして、花き花木の販売促進、輸送支援等をさせていただいて、農産業及び観光振興ということで、稼げる秋葉区というものを当時、目指して、取り組ませていただきました。先ほど、副市長もおっしゃっていましたが、なかなか人口が減っていき、かつ若者が地元から離れざるを得ないような状況がありますけれども、私としましては、地元で働ける、ないしは起業ができる取組みを進めたいと思っておりますし、アキハスムプロジェクトでも取り組もうとしておりましたけれども、子育て支援、共働きによって、若い世代がさらに秋葉区を目指していただけるような、生活の質を高めるような取組をしていきたいと思っております。着任して、まだ1か月で、全体像をつかむのにまだまだ四苦八苦しておりますけれども、今後、目指すべき方向性なり、取り組む内容が固まる前に、皆様方と相談しながら、協議しながら、そして一緒に取り組むことをここにお誓いいたしますので、ぜひご理解とご協力をお願いできればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

2 議事

(1) 新潟市総合計画審議会委員の選出について

(金子会長)

それでは、次第の2議事に入ってまいりたいと思います。まず、一つ目として、「新潟市総合計画審議会委員の推薦について」ということで、古俣副区长よりご説明をお願いします。

(地域総務課長)

皆様こんにちは、地域総務課長の古俣です。

皆様のお手元には、資料2をご用意ください。

表題が「新潟市総合計画審議会委員の推薦について(依頼)」という資料です。表題の下の本文の2行目をご覧ください。新潟市では、市政運営の最上位計画であり、これからのまちづくりの方向性を示す次期総合計画の策定を進めております。策定に当たりましては、有識者の皆様などからなる新潟市総合計画審議会に内容をお諮りしながら、原案の策定が進められます。つきましては、秋葉区自治協議会を代表して、1名の方から表題にあります、新潟市総合計画審議会の委員に就任していただくべく、本日、事務局からお諮りするものです。推薦に際して、女性の推薦へのご配慮をとありますが、ジェンダーに理解ある男性委員もいらっしゃると思いますので、必ずしも女性委員でなければならないということではございません。

資料の2枚目をご覧ください。「新潟市総合計画審議会の設置について」です。「1 総合計画審議会の役割」についてですが、2行目にありますように、市長の諮問に応じ、総合計画の素案を審議、答申する機関となります。「2 委員の人数」ですが、45人以内で組織されるもので、学識経験者、各分野団体、地域団体、公募市民、関係行政機関の職員で構成されます。「3 委員の委嘱期間」は、第1回全体会から令和5年3月31日までですが、スケジュールとしては、図にありますように、6月下旬に市長の諮問を受け、10月に審議会として答申する流れとなっております。「5 会議の進め方」ですが、会議は主に平日の昼間に本庁舎で開催されます。審議会の構成は、全体会と四つの部会が想定されております。報酬につきましては記載のとおりです。資料の裏面をご覧ください。

次期総合計画構成と基本的考え方です。「1 次期総合計画の構成」ですが、基本構想、基本計画、実施計画の3層構造となっており、審議会に諮問されるのは基本構想と基本計画の部分となります。その下の見出し、計画期間ですが、令和5年度から令和12年度までの8年間です。さらにその下の見出し、新潟市総合計画と区ビジョンまちづくり計画の関係ですが、区ビジョンまちづくり計画のうち、区ビジョン基本方針は、新潟市総合計画の基本計画の一部として策定されるものですので、総合計画審議会の審議内容に含まれます。また、資料の右下のイメージ図にありますように、区ビジョンまちづ

くり計画ですが、基本計画と実施計画で構成されます。そのイメージ図の上に3行の文書がございますが、その1行目から2行目がございますように、区ビジョンまちづくり計画のうち、基本計画は左側のイメージ図の区ビジョン基本方針を踏まえて、より具体的な取組みの方向性を示すものです。資料につきましては、残りの資料は説明を省略させていただきますと思います。

以上、総合計画審議会の役割などをお話ししましたが、これらの内容を踏まえていただいて、秋葉区自治協議会から委員1名の推薦をお願い申し上げます。以上で、説明を終わります。

(金子会長)

ご説明ありがとうございました。ということでございまして、新潟市総合計画、市の最上位計画ということになります。そちらのほうの策定委員に1名、秋葉区の自治協議会から推薦をするということで依頼が来ております。早速、皆様にお伺いしたいと思いますけれども、ただいまの委員推薦に関していかがでしょうか。立候補、もしくは推薦がございましたら、ご発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(大貫委員)

私は、金子会長を推薦したいと思います。この審議会は、新潟市の市政運営における最上位計画の策定にかかわる委員を推薦してほしいということで、大変重要な役割であると考えます。秋葉区自治協議会において、幸福度調査を主体的に実施し、市と区に対して提言書をまとめ、提出していただいたところです。各種施策につながることや、区ビジョンまちづくり計画基本方針への基本資料として活用できるものとして、大変効果を上げられました。大学の准教授という立場から広い視野をお持ちで、区自治協議会での取組みや幸福度調査の成果を総合計画策定の場で十分な役割を果たしてくださるものと考えます。皆さん、いかがでしょうか。

(金子会長)

大変恐縮です。ほかに推薦される方はいらっしゃいませんか。

ということになりますと、大役で身が引き締まる思いですけれども、私のほうでお引き受けさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。では、張り切って行ってまいりますので、皆さんもぜひ応援していただければと思います。

それでは、以上で審議事項(1)の新潟市総合計画審議会委員の推薦についてを終わらせていただきます。

(2) 次期区ビジョンまちづくり計画基本方針素案に対する意見聴取について（報告）

（金子会長）

次に次第（2）「次期区ビジョンまちづくり計画基本方針素案に対する意見聴取について」ということで、こちらは前回3月の本会議の際に、皆様からさまざまな意見を出していただいたものをお諮りして、この形で提出しようかとまとめたものでございます。私のほうでとりまとめをさせていただいた結果をご説明させていただきたいと思っております。資料3をご覧ください。

令和4年3月25日付秋葉区長夏目久義殿にあてて提出をさせていただきました。

次期「秋葉区区ビジョン基本方針」素案への意見の提出について。標記の件について、秋葉区自治協議会の意見を下記のとおり提出いたします。以下の4点となるわけですが、本会議の中で、主に議論のあった点を集約して、書かせていただいております。まず1. 一部の文章表現に解りにくい点が散見されます。区民が見ることを意識して、簡潔でわかりやすく、ポイントを押さえた文章を心がけていただくようお願いします。2. 「楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち」の項について、表題の「まちなか」が中心市街地（商店街）を指すのか曖昧であり、一方で中心市街地活性化に関する方針も示されていません。また、秋葉区全体を「まち」と表現している方針もあるため、言葉の意味を明確にしつつ方針の再整理をお願いします。3. 同じく「楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち」の中に子育て・教育環境に関する方針の記載がありますが、その性格から言って「育て・生み出し・活かすまち」の項で掲げるのが相応しいと考えます。ご検討ください。4. 防災や治安に関する明確な方針が見受けられないため、記載をお願いいたします。という以上4点を特にここで書かせていただき、さらに皆様からお出しいただいたご意見は、一言一句漏らさずに、添付の資料としてここに添えて提出させていただきました。ということで、きっと何らかの形で反映をしていただけるものと思っております。以上、ご報告をさせていただきます。

何かこの点につきまして、ご質問等ございましたらお願いします。いかがでしょうか。よろしいですか。では、特にないようでしたら、以上で次第（2）「次期区ビジョンまちづくり計画基本方針素案に対する意見聴取について」を終わります。ありがとうございました。

(3) 副市長との意見交換会

（金子会長）

では、次第「(3) 副市長との意見交換会」に移らせていただきます。本日、朝妻副

市長からせっかくお越しいただいておりますので、この機会に何か副市長にお伝えしたいことがございましたら、積極的にご発言を頂きたいと思います。何か発言ございましたら、挙手の上お願いしたいと思いますが、どうぞいかがでしょうか。

(長谷川 (啓) 委員)

秋葉区を担当されると最初にごあいさつの中でおっしゃいました。秋葉区のほかにどのような区を担当されるのか。どのように副市長の担当区が決められたのか、その辺を聞かせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(朝妻副市長)

それでは、お答えさせていただきます。副市長は私のほかにもう一人野島さんという女性が4月から副市長になりました。行政区は8区ありますので、4区ずつ担当することになりました。私が担当させていただくのは、江南区、秋葉区、西区、西蒲区です。今年の4月の人事異動の関係で、区長が替わったところは江南区、秋葉区、西区です。この区長が替わった3つの区は、3年目の私が担当することになりました。西蒲区は、3年目になりますが、観光分野は野島副市長が担当します。西蒲区は温泉などがございますので、そういう意味では2人で担当する感じになるかと思っております。

参考までにそれ以外の部局のことを申し上げますと、都市政策、土木、下水といったハード系のまちづくり関連は、私が担当します。今まで私が担当していた福祉、こども未来、保管衛生、観光・文化については野島副市長が担当するということで役割分担をいたしました。どちらかというとならハード系をメインに担当させていただき、女性の副市長は、割と明るいところを担当していただいたほうが良いかと思ひまして、役割分担をして、基本的には私が原案を作り、市長の了解を取って決めたということです。

(長谷川 (啓) 委員)

よく分かりました。男女協働、男女平等、私も賛成ですけれども、女性、男性の特質というのがあろうかと思ひます。その特質を大いに活かされての担当区なのかと思ひました。ありがとうございました。

(金子会長)

長谷川委員の勇気を称えたいと思ひます。手が挙がっております、伊藤さんのほうが先だったでしょうか。

(伊藤 (治) 委員)

ロシアによるウクライナ侵略について新潟市としての姿勢を聞きたいのですが、ロシアと新潟は姉妹都市がありますが、新潟市としてはこういう現状において、どのようにしていこうと考えていらっしゃるでしょうか。それをお聞かせください。

(朝妻副市長)

国の方針として、例えば、ウクライナから避難されてこられるような方々については、基本的には全面的に受入支援をするということなので、その姿勢に関しては、本市も同じです。報道でご存じかと思いますが、新潟市内には、8名のウクライナの方がお住まいになっています。最初に支援のあり方について、する、しないという表明も含めて考えたのは、実際に住民の方々と接する区長の意見が大きかったのですが、率先して支援をするということよりも、その方々の実際のニーズやお気持ちというものを把握させていただいてからのほうが良いのではないのかということで、そのように接触をさせていただきました。そういうことを望まない方もいらっしゃるのので、全員の方にコンタクトが取れているわけではないのです。ウクライナの方々については、ナイーブな側面もあるので、そういう対応を取らせていただきました。

それから、姉妹都市交流の関係や総領事館が新潟にはあります。そこに関しては、基本的には、言い方が適切かどうか分かりませんが、とりあえずは静観をさせていただきます。国との関係でございますので、そこから何か一步出るということは、今のところは考えておりません。ロシアとの関係だけではなくて、日韓との関係というものも、今、非常に微妙なところがございますが、我々のスタンスというのは、国と国との問題にかかわらず、市民交流や、草の根でやってきた歴史というのは大事にしなければということが、基本的な考え方だったわけです。ロシアについても、その考え方は、基本的には変わらないと思うのですが、今年度、具体的な交流ができるかということになると、今は無理だろうと思っています。

(金子会長)

ありがとうございました。非常に興味深いお答えだったかと思います。では、手を挙げていただいたのは田中さんでしょうか。

(田中委員)

新潟市がゼロカーボンシティを目指すという話を聞いております。民間の住宅で太陽光発電を作ったときに補助金があったかと思うのですが、今、どのようになっているか。それから、農地にソーラパネルをつけて、それを農業生産とともに太陽光発電のエネルギーを利用する計画があると聞きました。ただ、農地に太陽光発電のパネルを作ると、下のほうが日陰になって農作物はできないかと思うのです。その辺はどのように考えているのか教えてほしいです。ゼロカーボンシティについて、このにいがた未来ビジョンのなかで検討していく中で、部会を立ち上げていくのかということをお聞かせ願いたいと思います。

(金子会長)

ご質問ありがとうございました。副市長お願いします。

(朝妻副市長)

ゼロカーボンシティを目指すというのは、国に準じて、方針を示させていただいたところですが、普通に考えると非常にハードルは高いですね。もともと持っていた計画値をそのまま進めていっても、その目標になかなか到達しないような目標数値しか、今のところまだ持っていません。それを今回変えるという手続きをまず踏んで、ゼロを目指して頑張りますという計画にやり直すという段階にいます。

それから諸々の助成制度については、今、手元に資料がありませんが、まだ残っていると思いますし、やがて提案することになると思いますが、税制上の特例のようなものを聞くようになるのではないかと考えております。詳細については、後ほど、何か資料提供させていただければと思いますのでお願いします。

それから、水田の太陽光発電というのは、具体的にどういう計画なのか存じ上げませんが、今まで実際に太陽光パネルを設置したのは、西蒲区の耕作放棄地でした。設置された下の方を心配する必要のない場所だったので、水田として活用されているところはどうかとは思いますが、土地改良区が水路の脇に小型のものを張りつけているというのは存じ上げていますが、大規模な水田を活用した太陽光パネルの設置というのは、存じ上げていないので、情報収集したいと思います。総合計画の中でも、その観点は議論になると思います。

(田中委員)

太陽光パネルというのは太陽光の角度が必要で、美観的なものもありますが、秋葉山の斜面を利用することもあると思うのです。大きな太陽光発電が秋葉区にあるとなれば、秋葉区にとっては、大変メリットになりますので、その辺りも含めて検討していただきたいと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(長谷川(隆)委員)

今、新潟市の中心部は、駅から日銀まで2キロということで、莫大な予算をつぎ込んで手を加えています。周辺の東区、西区、秋葉区などには、そのような構想はないのでしょうか。秋葉区全体を活かしていくという、例えば企業誘致、あるいは住宅地の造成について、磐越道、関越道、鉄道など交通の便が良く、都心からの居住には非常に利便性の良い場所でもあります。こういう場所でありながら、全体的な開発構想が出ていな

いということは、疑問を感じるころなのです。やり方によっては、もっと区全体が活性化できるのではないかと考えています。その辺りをお伺いしたいと思います。

(朝妻副市長)

「にいがた2km」の取組みについては、線的な、いわゆる旧新潟のまちなかだけが発展すれば良いのだということでは決してなくて、ただ今、各区との連携というものを若手の職員に入ってもらい、検討を始めたところです。具体的に、秋葉区だったらこういう連携ということがお話しできる段階にないので申し訳ないのですが、いわゆる旧新潟のまちなかだけをどうしようと思っているわけではないという考え方ですので、今後の議論の展開を見守っていただければと思います。市長の気持ちとしては、まさに各区いろいろな特性があり、伝統芸能的なものなどが残っているわけですが、今、コロナで発表する機会が奪われているので、このままだとなくなってしまうようなものもあるのではないかという思いがあり、新潟駅前からの一帯をそのような出合いの広場のようにして、各区から出てきていただけるとありがたいと市長はおっしゃっています。そういう場にもしていければと思っています。

それから、各区の発展ということで、開発のお話がありました。今まさに総合計画と同時に都市マスタープランの線引きの議論が始まっていて、農地を市街化するということに関して非常に厳しい中で、どのくらいのことができるのかということで、もう少しすると個別の開発計画はどういうものがありますかということをお聞きする段階になると思います。非常に多くのプランを持っている区もありますが、全部を実現することは不可能だと思いますので、その中で取捨選択をしていく。そのプロセスがさらに1年くらいかかるのではないかと考えています。そういう中で、各区の特性を踏まえて、それぞれの発展に資するようなものはどういうものが良いのかというところを議論していただろうと思います。

冒頭、広域合併からもうじき20年経って原点に立ち返ってみる必要があるのではないかと申し上げました。各地域がいきいきとして、さらに新市として発展するというイメージの中で大同団結をして合併したわけですので、そういうところを改めて考えてみる必要があるのではないかとこの意味で申し上げました。合併などしなければよかったという意見に対して、少しでも新市となって良かったと思っていただけるような取組みをしなければいけないのだろうというのが、冒頭に申し上げた原点という意味でございます。引き続き、よろしくお伺いしたいと思います。

(長谷川(隆)委員)

早い段階で指針を示していただかないと、高齢化して、疲弊するだけなのです。何と

か早い段階で手を打っていただいて、方向性だけを示していただければ、大変ありがたいなと思います。ありがとうございました。

(金子会長)

ありがとうございます。そろそろお時間がちょうど良いころと思うのですが、どうしてもこれだけは発言しておきたいという方がいらっしゃいましたら、最後にお一人お願いいたします。

(保科委員)

山の手コミュニティ協議会の保科と申します。名前が表すとおり、山の手地区は、すぐ横に自然が多く、山があり、新潟市と他市町村の境にございます。新潟の中心から見ればいちばん端ということになります。にいがた2km圏は非常に良いコースだと思います。それはそれでよろしいのですが、山の手地区は自然の多いところも、また何か特長のある形で少し産業か何か残していければと思っておりますので、ぜひ花の湯館など、いろいろな良い施設もございますので、お休みが取れるようなときがあったら、ぜひ来ていただき、お風呂に入っただけければと思います。山の手地区をPRさせていただきました。ありがとうございました。

(金子会長)

皆様、ありがとうございました。そして、副市長もお答えいただきまして、ありがとうございました。副市長のほうから何か加えて一言ございますか。よろしかったらお願いいたします。

(朝妻副市長)

私から質問をさせていただいてもよろしいでしょうか。先ほど申し上げたように、最初に就任したときは、こども未来部を担当しておりました。1年目だったと思うのですが、「にいつ育ちの森」を視察させていただいたことがあります。そのときに、秋葉区の子育てということに関して、非常に若いお母さんたちが移り住んでくる候補地としては、非常に魅力的な場所であるということをお伺いして、なるほどなと思っておりました。しかし、市政世論調査で各区別の分析結果を見たときに、秋葉区の肯定的な評価の1番目は、当然、子育てなのだろうと勝手に思っていたわけです。実際、ふたを開けてみたらそうではなかったので、少し意外だったのです。どういう世代がお答えしていただいているのかということもあろうかと思いますが、改めて秋葉区の子育てという観点で、皆さんとしてどのような評価をされているのかというところを、ぜひ聞いてみたいと思いますが、いかがでしょうか。

(金子会長)

逆質問ありがとうございます。最も関係しているのは佐々木さんですが、どのように評価していますか。

(佐々木委員)

放課後児童クラブを運営しております、ディンプルアイランドの佐々木と申します。

秋葉区の最も良いところが、子育てという評価を頂けなかったのはとても残念なことではございますが、今年度から保護者の収入によりまして、保育料が減免されることになりました。それまでは、私が担当しております4つの小学校区、8つの放課後児童クラブでは、一律の保育料で、どの家庭も収入に関係なく、一律の保育料1万円を頂いております。今年から保護者の皆さんは、大変新潟市の施策に感謝をしているというところであります。しかし、今までそれをあまり大きい声で言ってきませんでしたので、この4月から変更になりますということを、2月くらいに急にそのお話をさせていただいたのです。12月の議会が終わるまでははっきりとしたことが申し上げられなかったのが現状なのですが、この4月から保育料が安くなったということで、急に入りたいというお子さんも何人か出てきております。今までコロナ禍で、家で留守番をさせておいたほうが良いのではないかとあって、昨年度1年間、4月の当初から年度末までに放課後児童クラブを100人の子どもが辞めました。それを考えると、保育料が安くなり、使いやすくなったということで、少しは育てやすいとっていただけるのではないかと思います。

また、児童館が秋葉区はございません。「にいつ育ちの森」は未就学児童が対象なので、児童館ができると、少し変わるのではないかと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。もう一人、保育の専門家が委員の中にいるのです。今日、授業があるそうで欠席していて残念でした。ただ、昨年度やらせていただいた秋葉区民幸福度調査というものがあまして、その調査結果を踏まえた提言書というものを3月末に市長あてに提出をさせていただいてございます。その中のまさに一つに、子育て世代に選ばれる環境づくりという項目を書かせていただきまして、やはり調査結果からも、実は秋葉区民はあまり子育て環境に満足していないという現状が残念ながら出てきてしまいました。もちろん副市長ご指摘いただいた育ちの森の活動は、非常に全国的にも先進的な事例かとは思いますが、注目も集めてきてはいるのですけれども、それだけでは、やはり埋まらないものがあるのかなという部分があります。中学生向けにも同じ調査をしたところ、8割近くが社会のために役に立ちたいのだけれども、何をしたらいいかわからないという、そういう子どもたちの思いと地域を結びつけるような、一步踏み込ん

だ施策も必要なのではないかということがありました。新年度から始まっています、地域教育コーディネーターの新たな配置、役割みたいなものも重視をするという点も加えて、提言としてまとめさせていただいていますので、ぜひまた秋葉区ご担当ということで、こちらの提言書のほうもご覧いただけるとありがたいと思っております。よろしくお願ひします。

ということで、あっという間ですが、以上をもちまして、副市長との意見交換の時間を終わりとさせていただきたいと思ひます。

(4) その他

(金子会長)

本日、年度当初ということで、各部会からの報告ということは、特にございませんので、そのほか、何か委員の皆さんで共有しておきたいこと、ご紹介したいことなどございましたら、ご発言いただいてもけっこうですが、いかがでしょうか。

(加納委員)

最近、陽気もよくなりましたので、秋葉山をよく歩くようにしています。そうしましたところ、昨年、建設課のほうで遊具が新しくなるということをお聞きしておりましたので、どのようになったのかと思ひまして行ってみました。確かに立派にはなりましたが、それが5月16日までの工事期間となっているのです。今、陽気もよくなってきたので、たくさんのお子さんたち、秋葉山のほうも、キャンプ場もけっこういろいろな人がテントを張ったりして楽しんでいらっしやいました。この大型連休もあるわけですので、そこであの施設を利用できないのかと感じましたので、発言させていただきました。

(建設課長)

建設課長の今井でございます。

そうやって秋葉公園を親しみながらご活用いただいておりますことに感謝申し上げます。現在、老朽化した遊具の更新ということで、昨年度から継続工事で進めておりまして、ほぼ現地のほうはもうできあがっている状態でございますので、一応、工事業者との契約工期が多分、現地に書かれているかと思ひます。やはり工事物として、業者のほうから完成したものを市が引き取って、初めて供用開始ができる形になっております。受け取る前に工事検査、完了検査を行う必要がございますので、今の準備段階ですと、この4月中旬に工事の完了検査を終わらせてまして、ゴールデンウィークには使えるような状態にしようという形で手配をしている状況でございますので、ご理解のほど、お願いした

いと思います。ありがとうございました。

(加納委員)

よく分かりました。私もそうなればいいなと思ひまして、今日は言葉を出させていだきました。ありがとうございます。

(金子会長)

ありがとうございました。ほかいかがですか。よろしいですか。

(横山委員)

一般社団法人新津青年会議所の横山喜規と申します。第1部会部会長として活動させていただいておひまして、第1部会のきらめきサポートプロジェクトが5月12日に説明がありますので、来ていただいて、説明会を聞いていただかないと、きらめきサポートプロジェクトに参加できませんので、よろしくおひ願ひいたします。

一般社団法人新津青年会議所は5月29日に第35回になりますわんぱく相撲大会を開催させていただきます。新津地域学園相撲場で行わせていただきます。対象が秋葉区にお住ひの小学4年生から6年生の男女となっております。もちろん新型コロナウイルスの対策をしつつ開催いたしますので、お近くの対象になる子がいらっしやいましたら、お声がけいいただいて、参加していただきたいと思ひますので、どうぞよろしくおひ願ひいたします。

(金子会長)

大事な告知を頂き、ありがとうございます。きらめきサポートプロジェクトはぜひ皆さんもPRにご協力をおひ願ひします。また今年もいい活動を秋葉区内の市民団体の皆さんと繰り広げていきたいと思ひますので、5月12日の説明会に来ないと、まず応募もできないということですので、ぜひ皆さんも周囲にお声がけいいただければと思ひます。以上で議事を終了したいと思ひます。

3 閉会

(大貫副会長)

皆さん、大変ご苦労さまでした。

今日は最後のあいさつをいつも輪番制だったので考えてこなかったのですけれども、新年度だから私がしなければならなかったのだと思ひているところです。

おひな様のつるし飾りの時期だったのですが、今年、少し腰を痛めて1か月くらい動けなかったのです。そのときにお友達が車に乗せて、各会場を巡ってくれました。そのときに、本当に良いお友達を持ってよかったなと思ひたと同時に、各地域を実際に回っ

てみて、コミュニティの建物だったり、いろいろなところを見て回ったときに、十分設備が整ったところで活動されているコミュニティ協議会もあったり、そうでないところもあったり、いろいろなことを知りました。そんなことを思いながら、今度はお花見もお友達がまた連れていってくれました。そのときに、新津のまちでご飯を食べて、それから巡ろうということで、横山さんのお店でランチを食べて、お花見をさせていただきました。そのときに、まちなかを少し歩いてみようかと思って歩きました。小須戸のまちもシャッターが閉まっているところがたくさんあるのですけれども、それ以上に新津のまちがシャッター街で、本当に悲しい思いをしたのです。今日、いろいろな話を聞く中で、まちが息づくことはとても良いことです。まちだけではなくて、やはり人が息づかなければ、世の中は楽しくもならないと思うのです。私たちが、こうして活動していることを身近な方たちに伝えていただきたいと思います。大きなことだけではなくて、ささやかな活動からいろいろな人たちに幸せは芽生えてくると思うのです。

子育ては大事なことですよね。本当に大事だと思います。大きな会場の場だけではなくて、副市長にぜひお願いしたいのですが、アポを取って回るのは、しかたがないことなのかもしれないですけれども、地域を回るときにノンアポで、いろいろな施設をのぞいてみていただけたらと思います。そうしたことが気づきにもなってくれると思うのです。これから、まちづくりに対してそういう気持ちが何かお役に立つのではないのかと思います。そんなことを思って、終わりの言葉にしたいと思います。今日はありがとうございました。

(金子会長)

ありがとうございました。

ちなみに来月から、各部会順々にごあいさつを頂きたいと思います。次回5月の本会議は、始めと終わりのあいさつを第3部会の皆様からスタートです。そこからまた1、2、3、1、2、3、1、2、3と2月まで繰り返しとなりますので、ぜひこの会議で1回もあいさつしないまま任期が終わってしまったということのないように皆さん、1回はマイクを握ってごあいさつの機会をぜひ得ていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。